

The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

エミリーの詩は難解なイメージがあり敬遠されがちですが、ライフワークとして何十年も研究を重ねてきた人と、金ケ崎町とアマースト町が姉妹都市であることからエミリー・ディキンソンを知った人とは解釈が違ってくるのも当然でしょう。また、同じ詩を読むにも、その時の気分によって感じ方が違ってくるもの。

私が言いたいのは、まず読んでみてくださいということです。そして、往年の北米ニューイングランドの自然や人々の息づかいを感じてください。

‘A Wounded Deer — leaps highest—’

A Wounded Deer — leaps highest —
I've heard the Hunter tell —
'Tis but the Ecstasy of death —
And then the Brake is still!

The Smitten Rock that gushes!
The trampled Steel that springs!
A Cheek is always redder
Just where the Hectic stings!

Mirth is the Mail of Anguish —
In which it Cautious Arm,
Lest anybody spy the blood
And “you're hurt” exclaim!

手負いの鹿は — もっとも高く跳び上がる —
獵師がそう語るのを聞いたことがある —
それはまさに死の法悦(ほうえつ) —
それから草むらは静まり返る！

水がほとばしるのは打ち砕かれた岩！
はね返るのは踏みつけられた鋼！
頬はいつもきわ立って紅い
消耗熱のくらくところ！

歓楽は苦悩の鎧(よろい) —
これを着て苦悩は用心深く武装する、
誰かが血を見つけて
「傷ついてるわ」などと叫ばないように！